20231022　SNCD 研究会

資源動員論について

諏訪　徹

１　社会運動論のなかの資源動員論

１－１　社会運動研究の代表的なアプローチ

- 社会運動研究の代表的なアプローチには、①集合行動論（Smelser 1962）、②資源動員論（複数の論者。1970～80 年代に形成）、③新しい社会運動論（Habermas, Touraine ら。1970～80 年代に形成）がある。
- ①②は説明アプローチ、③は解釈アプローチとなる（濱西 2016[1]）
  - 説明アプローチ…社会運動と同定された集合行為・組織の生成、発展、衰退等に関する因果的メカニズムの総合的な説明モデルの構築をめざすアプローチ
  - 解釈アプローチ…行為論に基づいて、ある社会現象（およびその要素）のもつ顕在的・潜在的意義を、社会運動を中心とするマクロ社会的歴史的理論に準拠しつつ解釈的に評価しようとするアプローチ
- 資源動員論は、社会運動組織が、ある環境の下で、既存のネットワーク等の資源動員構造を基盤にいかにして生成されるか（運動の発生過程）、生成された社会運動組織が対抗運動や他の同種の社会運動組織との対抗的・競合的な関係のなかで、いかにして戦略的に運動を持続・拡大させていくか（運動の展開・発展過程）を説明する理論枠組み。

２　資源動員論の主要概念

- 資源動員論の主要概念には、動員構造、フレーミング過程、政治的機会構造がある（McAdam et al 1996）[2]

２－１　動員構造 mobilizing structure

- 動員構造とは、家族、友人のネットワーク、自発的な結社、職場等のメゾレベルの集団、組織、非公式なネットワーク等で、それを通じて人々が集合行為に動員され従事する非公式または公式の集合的な手段、草の根の道具立てを意味する（McAdam et al 1996：3-4）。
- 動員の過程では、すでに存在している社会関係のネットワークが触媒となる（Melucci 1989=1997：23）[3]

---

[1] 濱西栄司（2016）『トゥレーヌ社会学と新しい社会運動理論』新泉社.

[2] McAdam, D. and McCarthy, J.D. and Zald, M. N. (1996) Introduction：Oppotunities, mobilizing structures, and framing processes－toward a synthetic, comparative perspective on social movement, McAdam, D. and McCarthy, J.D. and Zald, M. N. eds.Comparative Perspectives on Social Movements：Political Opportunities, Mobilizing Structures, and Cultural Framings, Cambridge, 1-20.

[3] Melucci A.（1989） Nomads of The Present;Social Movements and Individual Needs in Contemporary Society, Temple Univ Pr.（=1997 山之内靖・貴堂嘉之・宮崎かすみ 訳

・　運動形成とは、さまざまな行為主体が同じところに集まるという問題ではなく、むしろすでに集まっているさまざまな行為主体が、自己のネットワークを何か別のものに変えていくという問題で、新しい運動の登場は既存のネットワークの変更である（Crossley 2002=2009：164-169）[4]
・　動員構造は、組織的な形態やイデオロギー的な鋳型 template として新しく生成される運動の形態やイデオロギー的な特性に直接的な影響を与える（McAdam et al 1996：11-12）

２−２　フレーミング過程　frame framing

・　フレーム…人々が彼らの状況に対して与える共有された意味づけと定義。共有され、社会的に構築された考え（McAdam et al 1996：3,4）
・　フレーミング…〈行為〉主体が意味を生産し、伝達し、交渉し、意思決定する過程（Melucci 1989=1997：7）
・　事象や出来事を意味づけることにより、フレームは、個人的、集合的な経験を組織化し、行為を導くよう機能する（Snow et al 1986：464）
・　共有された意味づけや定義が、機会、組織、行為の媒介項となる（McAdam et al. 1996：5）。
・　行為者が集合行為を生みだすときには、（相互作用・交渉・紛争によって）自己と環境（他の行為者、入手可能な資源、機会、障害）とを定義する（Melucci 1989=1997：16）
・　つまりフレーミングは、行為者間、集団・組織内部の過程であると同時に、行為者たち・集団・組織をとりまく外部環境・機会等との相互作用の過程。

２−３　政治的機会構造

・　政治的機会構造とは、運動が埋め込まれた幅広い政治的な環境、政治的な制約と機会の幅広いセット。
・　政治的な機会の客観的及び認知的な利用可能性が、運動の発生のタイミングや形態に作用する（Tarrow 1998=2006：131-146；McAdam 1996：10, 27；Crossley 2002=2009：182-189）。
・　運動は、政治的な秩序が弱まったり、運動を受け入れるようになる変化の中で起きる（McAdam et al 1996：3-10）。

２−４　動員構造、フレーミング過程、政治的機会構造の相互作用

・　動員構造、フレーミング過程、政治的機会構造は、独立したものというよりも、相互作用的なものである。政治的機会は行動を起こすために必要な必要条件だが、十分な組織

『現代に生きるノマド』岩波書店.）

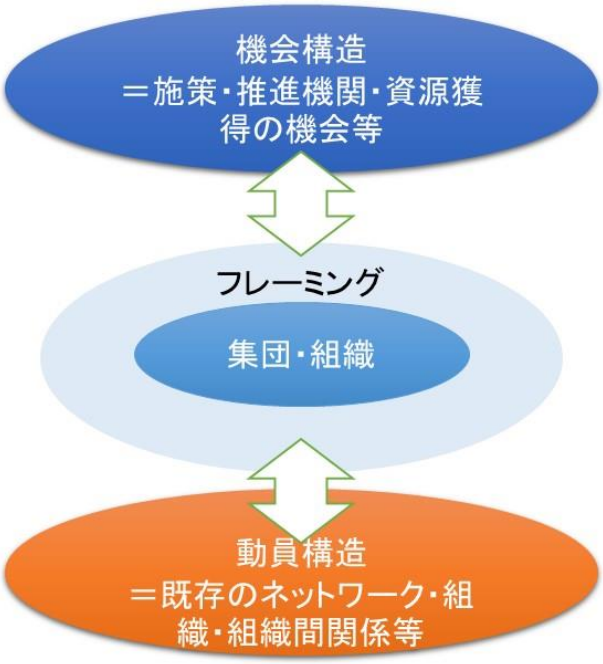
[4] Crossley, N. (2002) Making Sence of Social Movements , University Press UK Limited（=2009, 西原・郭・阿部訳 『社会運動とは何か　理論の源流から反グローバリズム運動まで』新泉社.）

を欠いていれば機会が捉えられることはない。また、行為者たちに共有された意味づけと定義であるフレームが、機会と組織という構造的な必要性の間を媒介する（McAdam et al 1996：8）

３　資源動員論を住民の福祉活動に援用することができるのか？

・　資源動員論を、地域における住民の福祉活動の生成・発展過程の説明に用いた先行研究は今のところ確認できないない。ただし、生活クラブ生協や住民参加型在宅福祉サービスの研究では用いられている。また、そもそも平時の共同と、非常時の運動の区分は困難。例えば、町内会・自治会はしばしば住民運動の資源動員基盤となっていた。

・　諏訪の考えとしては、社会運動も、住民の福祉活動も、いずれも複数の行為者たちによるある目的をもった集合行為である。集合行為の生成・発展過程の説明に、動員構造、フレーミング過程、政治的機会構造から説明できるのではないかと考える。

　・　社会運動…ある環境（機会構造）のなかで、動員構造を基盤に生成された組織が、構成員に共有された認識（フレーム）に基づいて行う、組織的な集合行為。

　・　住民福祉活動…地域という環境のなかで、これまでその地域で行われてきた共同による関係や組織等の動員構造を基盤に生成された組織が、構成員に共有された認識に基づいて行う、組織的な集合行為。